
ある少年の物語。

綾崎 璃梨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ある少年の物語。

【Nコード】

N4425P

【作者名】

綾崎 璃梨

【あらすじ】

とある王国の使用人・団扇は自分が使っている王女・紅に恋をする。しかし、それは大きな悲劇を生む。

プロローグ

? ああ。なぜ俺はここまで必死なんだろう。

そうか、あの時誓ったからだ。

だが、何で俺なんだ? ?

フラ…。そこから先は覚えていない。気がつくとも賊はもう人の姿を
していなかった。

「うわあっ! !」

ドサツ。また落ちた。つくづく俺は間抜けだと思う。しかも、ここ
最近同じ夢を見ているような気がする…。でも、思い出せない…。

「つてえ…。つてあああああゝ!! !!! ! !」

… 八時五分。俺たち使用人が起きなければいけないのは八時。つま
り、五分過ぎている。ということは、今日も朝食抜き。

…これで一体何回目だろうか。昨日直したはずの目覚ましがまた壊
れている。たぶんあの双子の仕業だ…。

「はあ。まあ仕方ない。そんなことより我が姫君を起こしに行かな
ければ。」

嵐の前触れ

昔々、あなたが考えているよりももつと昔。とあるところに、ルージュ」という国があった。桜一族が代々この国を治めていた。そしていつからかは知らないがその使用人は扇一族おんぎいしぞくがつとめていた。扇一族には“シエイル”という特別な能力があった。この物語は桜一族の第一王女紅姫だいいちおうじょへにひめに仕える扇一族の団扇うちわの物語。それは姫様が十六歳になったばかりのある朝のこと

コンコン。

「姫様、おはようございます。朝食のお時間です。」

「お入りなさい。」

ギーー。……。ああ。いつものことながら、姫はとても美しい。

ボタン。不機嫌な音とともにドアが閉まると同時に姫様も不機嫌な顔になる。また、いつものわがママが始まる。

「さあ団扇。今日こそは私の名前を呼びなさい。」

「無理です。俺はただの使用人。あなたはこの国の第一王女の紅姫様なんですから。」

「団扇、あなたただの使用人ではないでしょう。あなたは数少ない王室付きの特別使用人なのですから。」

「それでも姫様を名前で呼ぶなんてそんなことは……。」

「これはお願いではありません。命令です。早く名前を呼びなさい！」

「その命令だけはいくら姫様の命令だとしても、きくことはできません。それより、早く朝食を……。」

ガチャ。俺の言葉を遮るように窓が開き賊が入ってきた。そして目にもとまらぬ早さで姫を攫っていった。

「銀の髪……。」

ハッ。見とれている場合ではない。早く追いかければ……！

「侵入者だ！姫様が攫われた！誰か止めるーっ！！」

俺はすぐに賊が出て行った窓から叫んだ。

『しかし、ここは5階、ここから降りられるのは俺達扇一族だけのはず……。』

「冬扇、火扇、賊を捕らえよ！！」

この声は第二王女の桃姫様！目の端で何かが飛び降りるのが見えた。「おや、お姉様専属のおまえがいたのに賊が入ったというのですか。嘆かわしい。ぼーっとしてないでおまえも賊を追ったらどうです？」桃姫様の嫌味を最後までできかず、俺も冬扇たちの後を追って飛び降りた。

俺が地面に着地すると同時に俺の目の前を大きな扇を担いだふたり組が走っていった。赤い扇が冬扇、青い扇が火扇だ。おいていかれないように必死で後を追った。

半時間ほど走ったが、俺は冬扇たちまで見失ってしまった。

「ハア、ハア……。ど、どこまでいったんだよ……。」

「……何か聞こえる。俺はその方へ向かって走った。」

「……希望の光は闇を照らし、未来への道とならん。」

姫様の歌だ。姫様は歌うのが好きだ。この歌は俺と姫様が初めて会ったときに歌っていた歌だから忘れるわけがない。

「姫様！姫様！！どこですかっ！！！！姫様　っ！！！！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4425p/>

ある少年の物語。

2010年12月31日08時07分発行